

《 長崎新聞 平成24年5月28日朝刊より転載 》

【質問】知人ががんにかかり、自分もがんではないかと心配になりました。どうやって調べればよいでしょうか。(58歳・主婦)

がん検診

【回答】わが国の死因の第1位はがんであり、年間30万人以上ががんで亡くなっています。つまり3人に1人ががんで死亡していることになり、ご心配されるのも無理はありません。

がんになるのを予防する方法は一部のがんを除き、これといって確立されたものはありません。今のところ、がん死を防ぐ最も良い方法は「早期発見・早期治



最良の予防は早期発見

ん対策のため、国はがん対策基本法を制定し、毎年10月には国民のがん検診への

大腸がん検診は40歳以上であれば1年に1回受けられます。乳がん検診は40歳以上、子宮がん検診は20歳以上の女性であれば2年に1回受けられます。

検診の方法は公民館やバスによる集団検診、地域の診療所・病院での個別検診

療」です。そのためには症状が出る前の検診が不可欠です。しかし、残念なことに胃がん、

関心を深めてもらうキャンペーンを行い、官民一体となった取り組みを進めていきます。

などさまざまです。希望するがん検診を選ぶことにより、忙しい中であっても短時間で手軽に受けることができます。方法や料金はお

肺がん、大腸がん検診の受診率は3割程度、女性の子宮がん、乳がんに至っては2割台前半と非常に低いものとなっています。今や国民病といわれるが

会社での健康診断や人間ドックで1年に1回、がん検診を受ける機会がある人以外に対しては、市町村においてがん検診が行われています。胃がん、肺がん、

住まいの市町村により異なりますので、それぞれの地域の役所や診療所に尋ねるか、広報紙などで確認してください。

役所や診療所で確認を

特定健診が将来起こりうる脳卒中や心筋梗塞などの病気を予防するための健診であるのに対し、がん検診は現在の体の状態を知り安心を得るための検診です。検診で異常がなかったからといって、来年以降もがんができないと保障できるものではありません。

万が一、がんが発見されても早期であれば、かなり高い確率で克服できるようになってきました。ですから、症状がなくなるとも毎年検診を受けて早期発見に努めることが大切です。もちろん何か気になる症状がある場合は、すぐにかかりつけ医を受診されることをお勧めします。

(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。